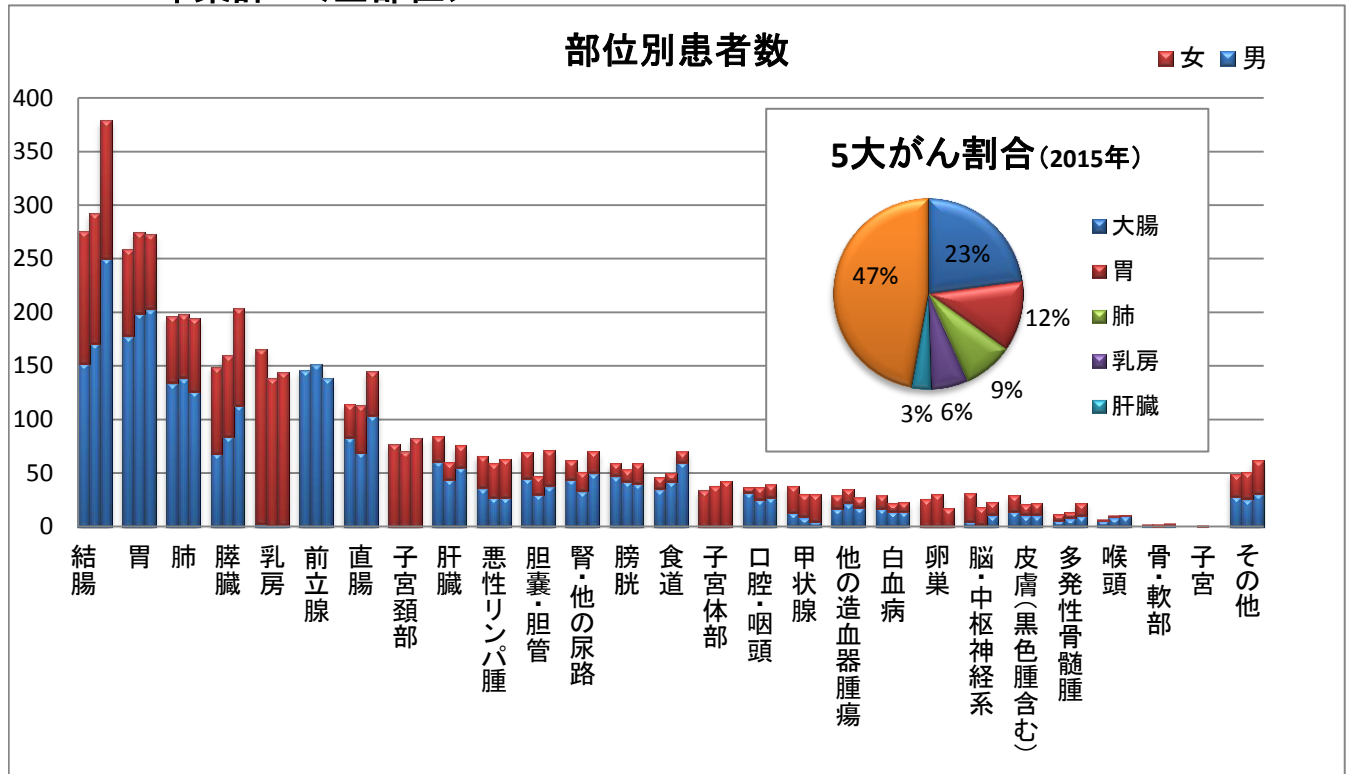


Ⅱ. 2015年集計 ＜全部位＞

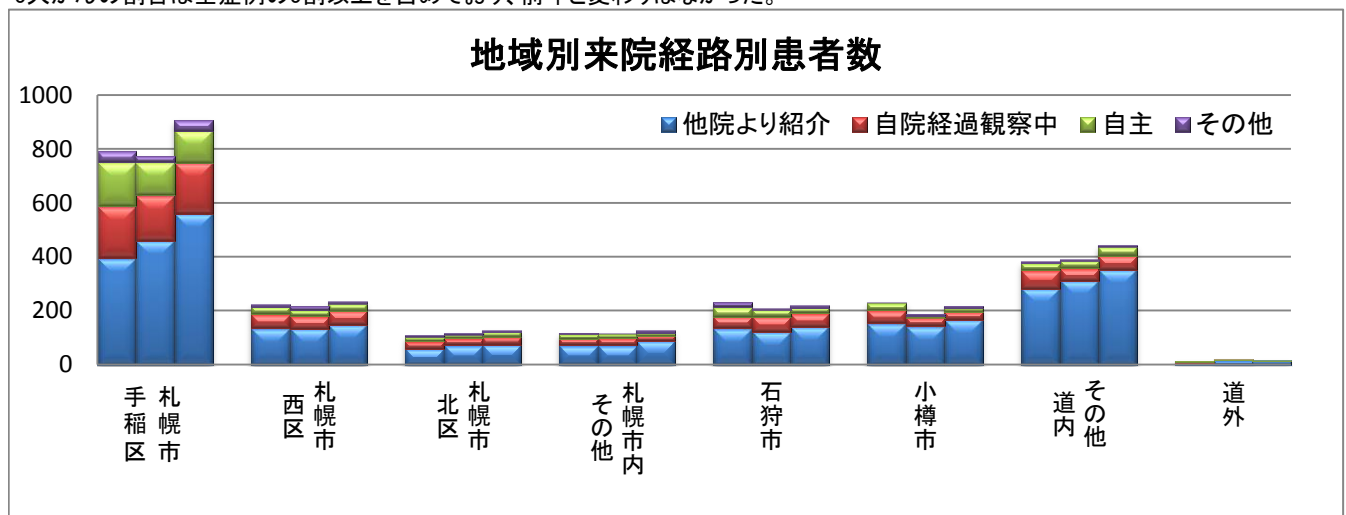


	結腸	胃	脾臓	肺	直腸	乳房	前立腺	子宮頸部	肝臓	胆嚢・胆管	食道	腎・他の尿路	悪性リンパ腫
13年	276	259	149	196	114	165	146	77	84	69	46	62	66
14年	292	275	160	198	113	139	151	70	60	47	50	51	59
15年	379	273	204	194	145	144	139	82	76	71	70	70	63

	膀胱	子宮体部	口腔・咽頭	甲状腺	他の造血器腫瘍	脳・中枢神経系	白血病	多発性骨髄腫	皮膚（黒色腫含む）	卵巣	喉頭	骨・軟部	子宮	その他	全登録数
13年	59	34	37	38	29	31	29	12	29	26	7	2		49	2091
14年	53	38	37	30	35	18	22	13	21	30	10	2	1	51	2026
15年	59	42	39	30	27	23	23	22	22	17	11	3		62	2290

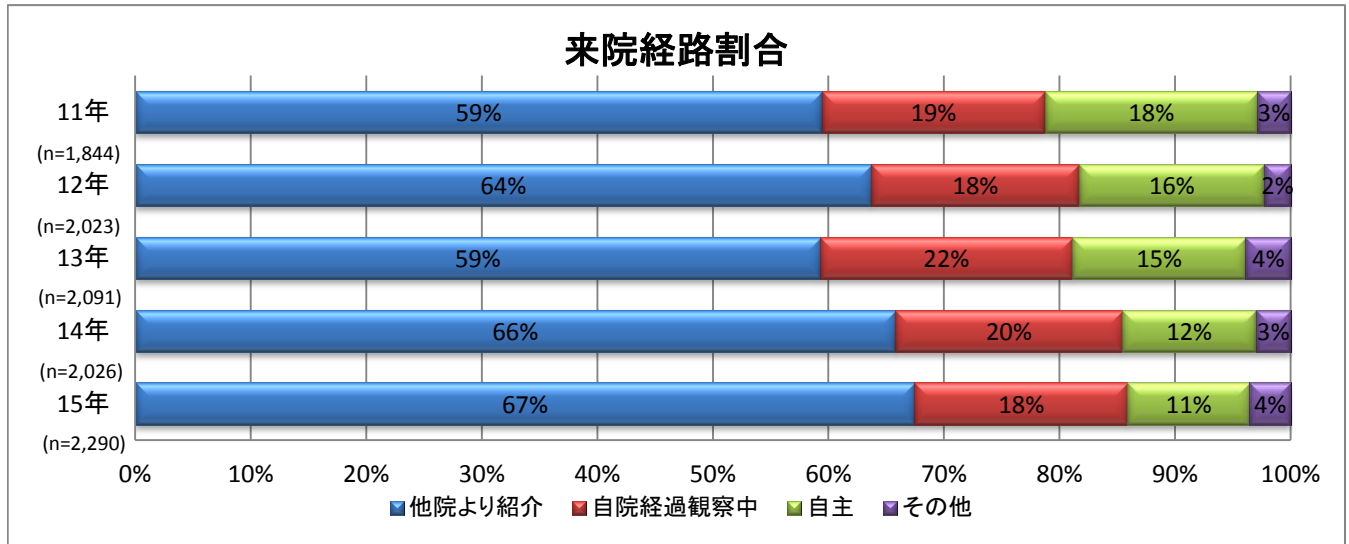
胃・肺・乳房等14年より差がない部位もあるが、結腸・脾臓・直腸は大幅な増加が見られる。

5大がんの割合は全症例の5割以上を占めており、前年と変わりなかった。

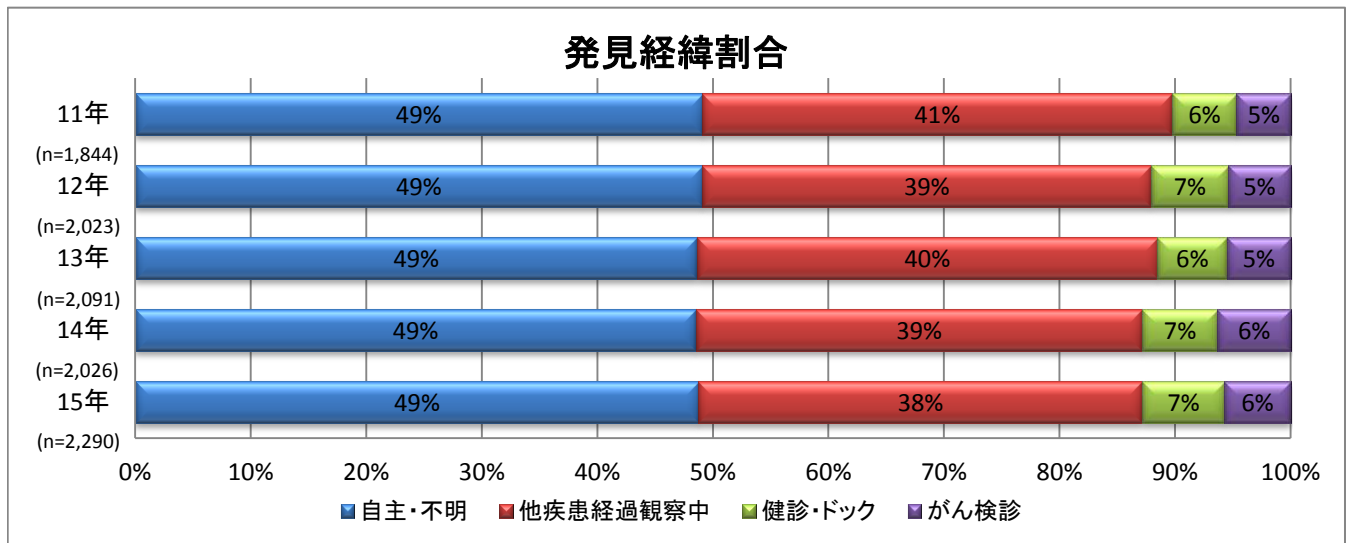


	札幌市手稲区	札幌市西区	札幌市北區	札幌市内その他	石狩市	小樽市	その他道内	道外
13年	792	222	107	117	229	230	381	13
14年	774	217	116	115	207	187	391	19
15年	908	233	127	127	219	218	443	15

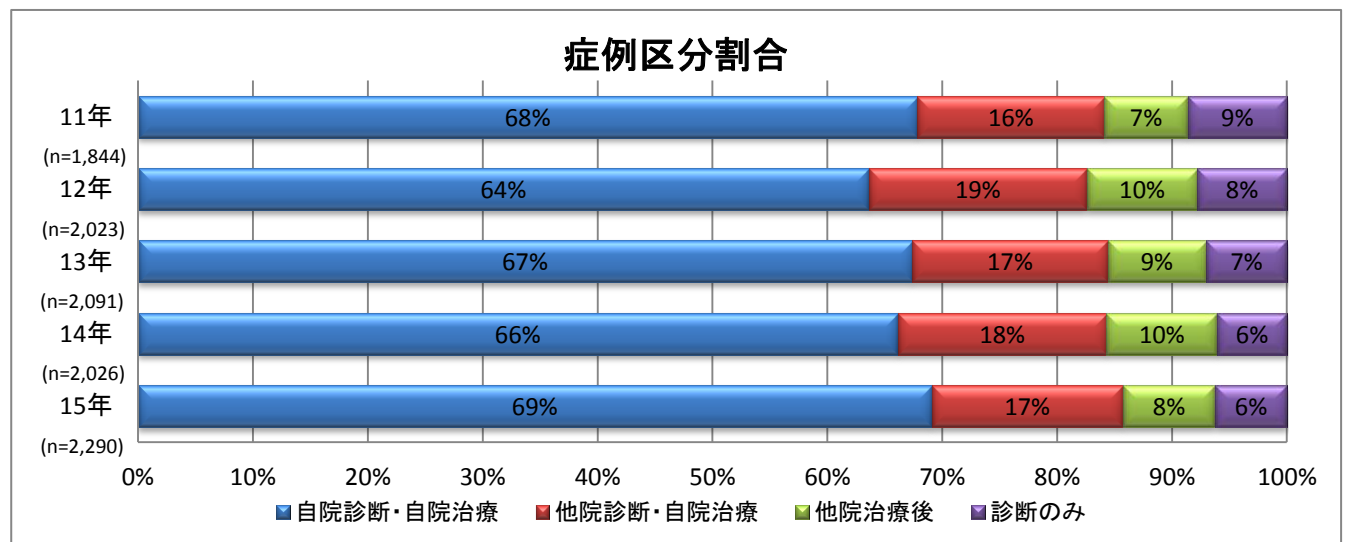
地域別では手稲区の患者数が西区の約4倍で最も多く、石狩市・小樽市も多い。来院経路別では「他院より紹介」が全体的に増加しており、特に札幌市手稲区・その他道内からの紹介患者数が多い。



「他院より紹介」の割合が増加しており、「自主」の割合は年々減少傾向が見られる。



「自主・不明」と「他疾患経過観察中」の割合が多く、経年変化はほとんど見られない。

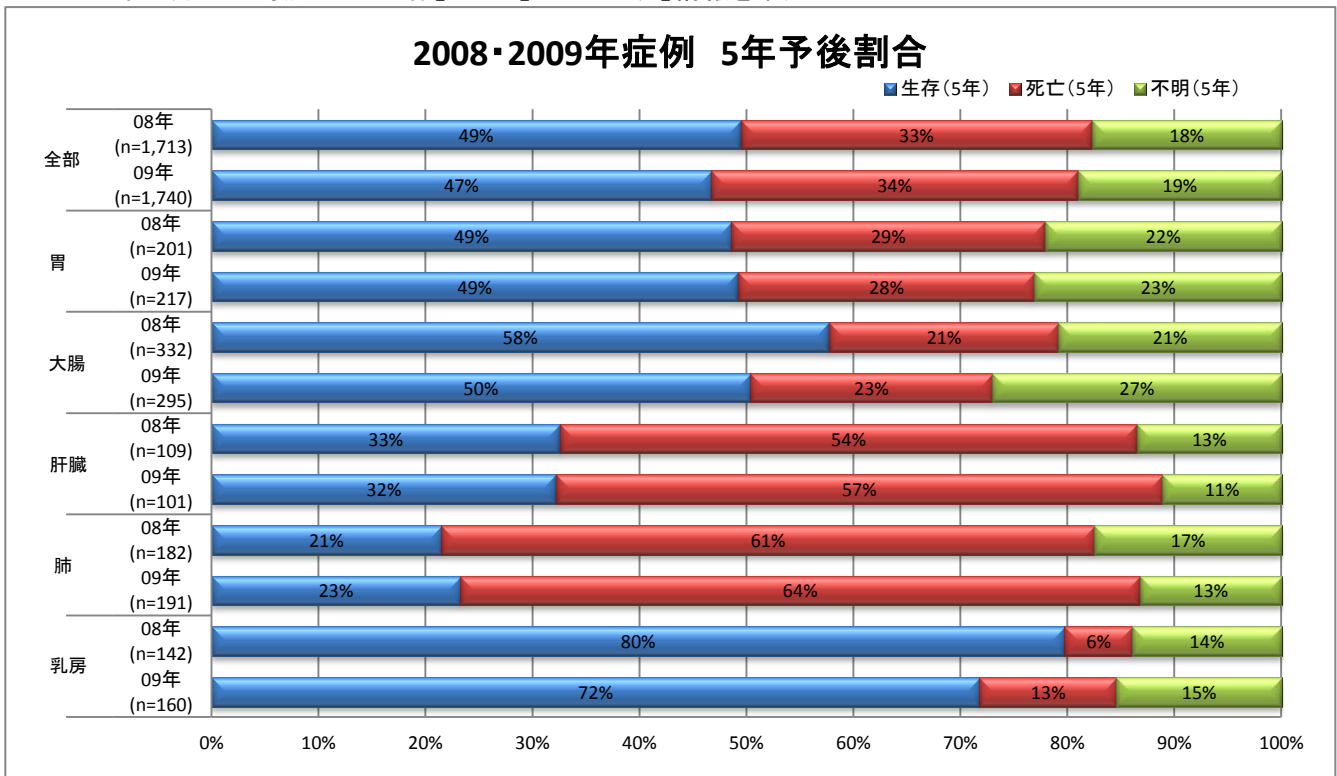


「自院診断・自院治療」の割合が高い。

予後調査結果

国立がん研究センターの研究事業として、予後調査の現状と課題の把握を目的に、2008～2011年診断症例について住民票照会による各市区町村区への予後調査が行われた。そこで得られた結果について掲載する。

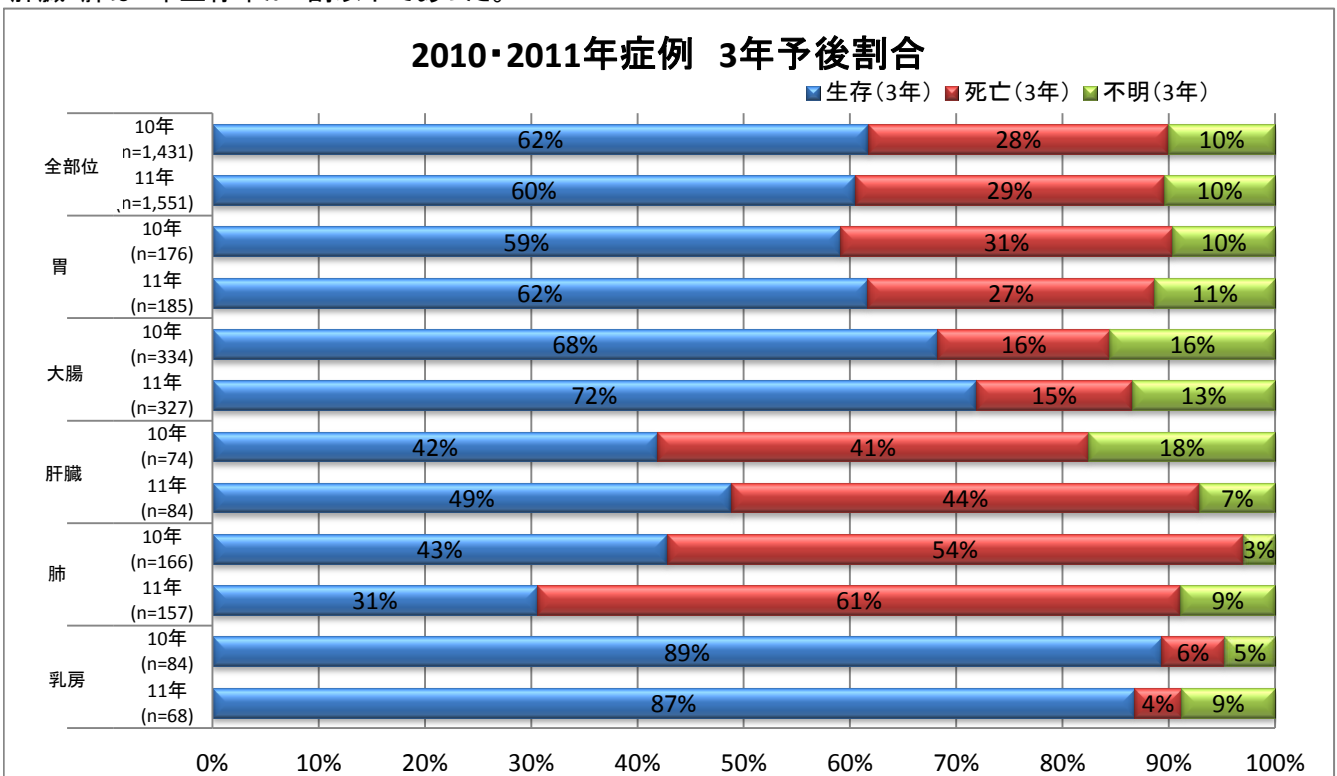
《2015年12月31日時点での「生存」「死亡」「生死不明」情報を集計》



全部位での5年生存率は2008年・2009年共に約5割であった。

部位別では胃・大腸の5年生存率が5割前後であり、乳房は2008年・2009年共に7割以上であった。

肝臓・肺は5年生存率が4割以下であった。



全部位での3年生存率は2010年・2011年共に6割以上であった。

部位別では胃・大腸の3年生存率が6割前後であり、乳房の3年生存率は2010年・2011年共に約9割であった。

肝臓・肺の3年生存率が2010年では4割台であったが、肺は2011年で約3割と低くなっている。